特集

“Sustainable Forest Action”

～異分野人材との協働による造林の課題解決～

国産材の利用が進み、木材自給率が上昇傾向で推移する中、森林資源の持続的な利用を確保していくためには、伐採後の再造林が重要です。

再造林を進めていくにあたっては、植栽から下刈りまでにかかる高いコストや林業従事者の高齢化等による人手不足などの課題を解消していく必要があります。このため、早生樹の利用、特定母樹（エリートツリー等）由来の苗木の供給、下刈の機械化など造林の低コスト化・省力化の取組を進めています。

また、林野庁では、このような取組に加えて、異分野の人材との協働など、再造林のあり方を変える取組を始めています。本稿では、その中の一つ、林業関係者と異分野人材の共働による事業開発プログラム「Sustainable Forest Action（ＳＦＡ）」について御紹介します。

SFAの仕組み

次世代林業リーダー
森林所有者、事業体、林業ベンチャー…

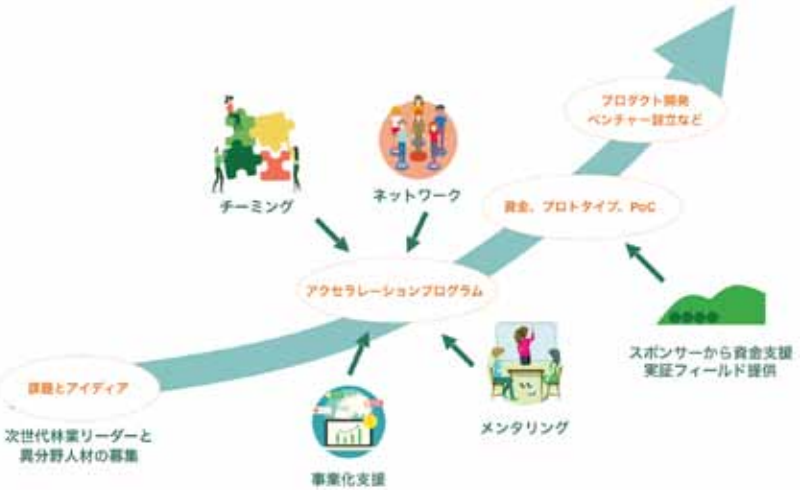
「ジブンゴト」としての
課題・アイデア提起

SUSTAINABLE
FOREST ACTION

異分野人材
メーカー、ベンチャー、IT企業…

社会課題解決に向けて
独自の技術やノウハウを結集

SFAの流れ



SFAのプログラム

事業開発期間・メンタリング（約2ヶ月間）

キックオフ	林業体験会	中間合宿	デモデイ
9/28 @東京 13:00-18:00 ■会場：TechShop Japan 9/29 @京都 10:00-16:00 ■会場：京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス	10/5 @静岡　島田市 10/27, 28 @岡山 西粟倉村	11/2 @東京 10:00-17:00 11/3 @東京 9:00-12:00 ■会場：TechShop Japan 11/3 @京都 16:00-20:00 11/4 @京都 10:00-12:00 ■会場：京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス	12/7 @東京 10:30-17:30 ■会場：日比谷国際ビル

異分野の技術・アイディアの導入促進

近年、ICTやAIといった新技術の発展・活用が急速に進んでいます。林業分野は、他産業との交流の機会が乏しくこれらの新技術の導入が十分には進んでいない状況にありますが、林業のうち特に人力に頼る造林においても、これら異分野の技術・ノウハウ・ビジネスモデルの導入・活用を推進することで、森林・林業の関係者が難しいと考えていた課題について、発想もしえなかった解決策が生まれてくる可能性があります。

林野庁では、このような観点に立ち、昨年夏から、林業関係者と異分野人材の協働による事業開発プログラム「Sustainable Forest Action（SFA）」を実施しています。

昨年夏に事業を開始してからの経過は次の通りです。

8月

林業課題の解決の事業化に高い関心を有する者を募集。森林組合や苗木生産者などの林業関係者、ものづくりベンチャーやIT関係の専門家など異分野人材から100名前後の応募があり、69名の参加者を決定。

9月上旬

応募者に対するヒアリングを通じ、関心や意向、技術能力等に応じた14のチームを編成。

9月下旬

キックオフ京都

キックオフ東京

林業体験会（岡山県西粟倉村）

林業体験会（静岡県島田市）

中間合宿 京都

中間合宿 東京

林業の業界や課題の説明、事業開発の講義・ワークショップ等を内容とするキックオフイベントを東京と京都で開催。

9～11月

各チームにおいて、造林分野の課題解決につながる新たな商品やサービスの開発を実施。この間、林業体験会、中間段階での進捗確認を目的とする合同合宿をそれぞれ開催。また、新規事業開発経験者やエンジニア等によるメンタリング（助言）により、各チームの事業案のブラッシュアップを支援。

このような取組を経て、昨年12月、14チームが、投資家などの審査員に対して事業案を説明するデモデイ（最終審査会）に参加しました。デモデイでは、造林作業に従事する者の健康管理・労務管理を行うスマホアプリの開発など現場課題の解決につながる事業アイディアのほか、森林所有者に直接アプローチして森林や造林などに関心を持ってもらうためスマホアプリの開発、森林内を走行する電動式のムーバーの開発、森林所有者への収益の還元を可能とする木材流通の最適化プロジェクトなど様々な事業アイディアのプレゼンテーションが行われました。

予選・決勝戦と二段階で行われた審査の結果、環境教育の体験学習の場として、自伐林家の現場を活用し、自伐林家の収入をアップさせることで、伐採再造林を促すビジネスや森林所有者向けスマホアプリなど三つのビジ

SFA デモデイの様子
（事務次官による開会挨拶）

審査員からの様々な質問に応じる発表者

決勝進出チームによるプレゼンテーション

集合写真

ネスアイディアが最優秀賞・優秀賞に選ばれました。

入賞チームに対しては、スポンサー企業からの協賛金により、事業化に向けた支援が行われています。これらのチームでは、法人化や人材・資金の確保などの体制づくりや、試験的なコンテンツの作成など具体的な取組が進められています。また、入賞チーム以外のチームにおいても、さらなる実証等を行い事業化を目指すなど、意欲的な取組が行われています。

今後の取組

このように、SFAの実証により、造林分野においても異分野の方々の参画を促し、新たな事業開発のアイディアを掘り起こすことが可能であり、その余地が大きいことがわかりました。このため、林野庁では、このような異分野の方々の参加による事業開発について、さらなる支援を行っていくこととしています。

具体的には、令和元年度補正予算において、事業化に向けた実証的な取組への支援を行うこととしています。また、令和2年度予算においては、SFAのようなマッチングや事業開発の取組に対し支援を行う予定です。

造林の現場課題の解決に向け、斬新なモノやサービスを開発し、新たなビジネスの創出をお考えの方々のご参加をお待ちしております。

入賞チームと事業の概要

チーム名	チームメンバー	事業概要	
最優秀賞受賞チーム「森がたり」	**上原　郁磨氏**（リデン株式会社・ソフトバンクテクノロジー株式会社） **小島　淳史氏**（自営業・フィールドワーカー） **田中　優哉氏**（林野庁より有志参加）	環境教育に興味があるユーザーに対して、バーチャル学習、現場での伐採・造林の体験、伐採した材を加工した家具をユーザーに届けるなどのコンテンツを提供。その現場に自伐林家の森林を活用することで、自伐林家の収入をアップさせ、伐採・再造林を促す。	
優秀賞受賞チーム「森も視守る〝まもり〟」	**木下　裕介氏**（住友商事株式会社） **石井　一成氏**（住友商事株式会社） **森下　昌彦氏**（株式会社NSD） **向井　祐貴氏**（株式会社NSD）	アナログでバラバラに存在する森林情報を、森林所有者が見やすく、デジタルで確認できるアプリ。個人の森林所有者が、適切な森林管理や相続・売買について、アプリ上で専門家に相談できるようになることで、再造林の放棄を防ごうとするもの。	
優秀賞受賞チーム「森のコイン」	**井上　達哉氏**（VUILD株式会社COO） **谷　　茂則氏**（谷林業株式会社／一般社団法人大和森林管理協会）	山林の価値を自動評価し、森林所有者へコミュニティ通貨「森のコイン」を発行するサービス。このサービスを通じて、地元を離れる森林所有者と林業関係者との繋がりを再構築し、誰もが地域や企業の森づくり活動に参加することができるようになる事業。	

スポンサー一覧

●主催・運営

林野庁　BEC ビジネス・エンジニアリング・センター　SPERO

●ゴールドスポンサー

国土防災技術株式会社　PASCO　木と生きる幸福 住友林業

●シルバースポンサー

ADDIX　CANYCOM　アジア航測株式会社 ASIA AIR SURVEY CO.,LTD.

●メンタリングパートナー

株式会社百森 HYAKUMORI

●メディアスポンサー

日刊工業新聞社　モノづくり日本会議

●後援

JFC 日本政策金融公庫